

# 防水下地処理ガイドブック

# 確実な防水改修を可能にする下地処理材

防水改修工事での下地条件は様々です。

下地処理材の選定は、下地との相性が良く、改修目的に合ったものにする事が決め手になります。

## p.5 アスファルトパネル貼り「乾式」下地処理工法 アスファルトパネル (バリボード)

厚さ4mmのアスファルトパネルを専用接着剤で貼り付け、アスファルト系テープで目地貼りして新たな下地を作ります。  
モルタルなどの養生が必要な湿式工法に比べ、早く確実に下地処理ができます。  
保護コンクリート面だけでなく、ブロック面や膨れ・脆弱部の多い露出アスファルト防水面にも使用できます。



膨れ・脆弱部の多い露出アスファルト防水面の乾式下地処理

タイル・ブロック等の特殊下地への乾式下地処理

保護コンクリート面への乾式下地処理 (シート防水面にも採用可能)



既存タイル・ブロック面

## p.11 SBR系ポリマーセメントモルタル「リグレー・ネオ」

モルタル・コンクリートとの良好な接着性をもつポリマーセメントモルタルです。  
混和液・パウダーを混練するだけで簡単に施工できます。



コンクリート・モルタル面等の下地調整に



既存保護コンクリート面

## p.12 水性エポキシ系下地調整材「リグレーエポ」

タイルや塗り床等、様々な下地との接着性に優れるほか、耐溶剤性に優れた下地処理材です。  
ウレタン防水施工時のピンホール抑制にも効果を発揮します。

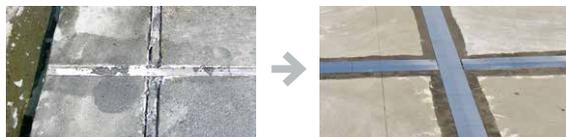


荒れたコンクリート面・タイル等特殊下地・立上り防水撤去下地

こんな部位の処理にも……

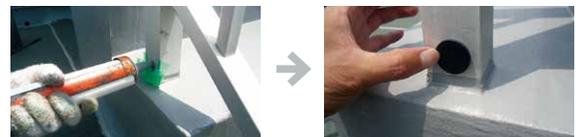
## p.13 改修工用目地処理工法「メジパス シール工法」

保護コンクリート下地の伸縮目地撤去後に、アルミ板で目地処理をする乾式工法です。目地部の挙動緩衝と湿気による防水層のフクレ防止に効果を発揮します。



## p.14 手摺支柱根元充填工法「ステムガード工法」

アルミフェンスが設置されている屋上では、フェンス上部の接合部などから、内部に雨水が浸入し、新たに施工した防水層の裏側に水が入り込む可能性があります。  
そこでアルミ手摺支柱部からの雨水の浸入を防ぐのが「ステムガード」です。



改修工事ではさまざまな下地があり、それぞれに適した下地処理材を選定することが大切です。本書では下地ごとの条件や新規防水層との相性などをご紹介します。適切な下地処理が選定できるよう、この「防水下地処理ガイドブック」をお役立てください。

p.8

アスファルト系下地活性材「リベース」



既存アスファルト防水面を活性化させるアスファルト系下地処理材です。同種のアスファルト系防水にかぶせ改修を可能にします。

アスファルト面の下地活性処理

p.9

水性ゴムアスファルト系下地調整材「クールベース」



既存アスファルト系防水層の部分撤去後の穴埋めや、不陸調整などに適している水性ゴムアスファルト系下地処理材です。既存砂付ルーフィング全面に施工することもできます。

荒れた下地  
吸湿下地  
水溜り・断面修復

p.10

水性ゴムアスファルト系仮防水材「アスグランド」



既存防水層を撤去後、新たにアスファルト系防水を施工するまでの一時的な仮防水として用います。この上にはプライマーなしでアスファルト系工法の施工が可能です。

防水撤去後仮防水

p.8

勾配屋根用下地調整材「リベースSL」



勾配屋根で使用するのに適した粘度に配合された既存シングル屋根用下地調整材です。かぶせ改修を可能にします。

p.10

水性アクリル系仮防水材「マルチグランド」



既存防水層を撤去後、新たに防水を施工するまでの一時的な仮防水として用います。特に高分子系新規防水に適しています。コンクリート下地にも適用可能です。

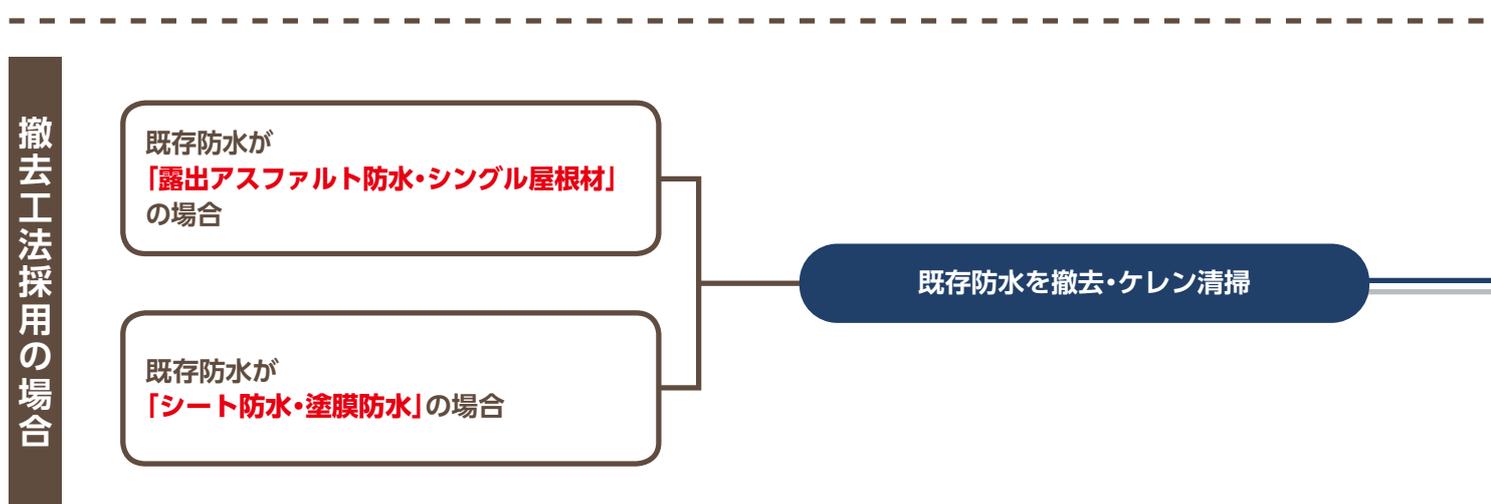
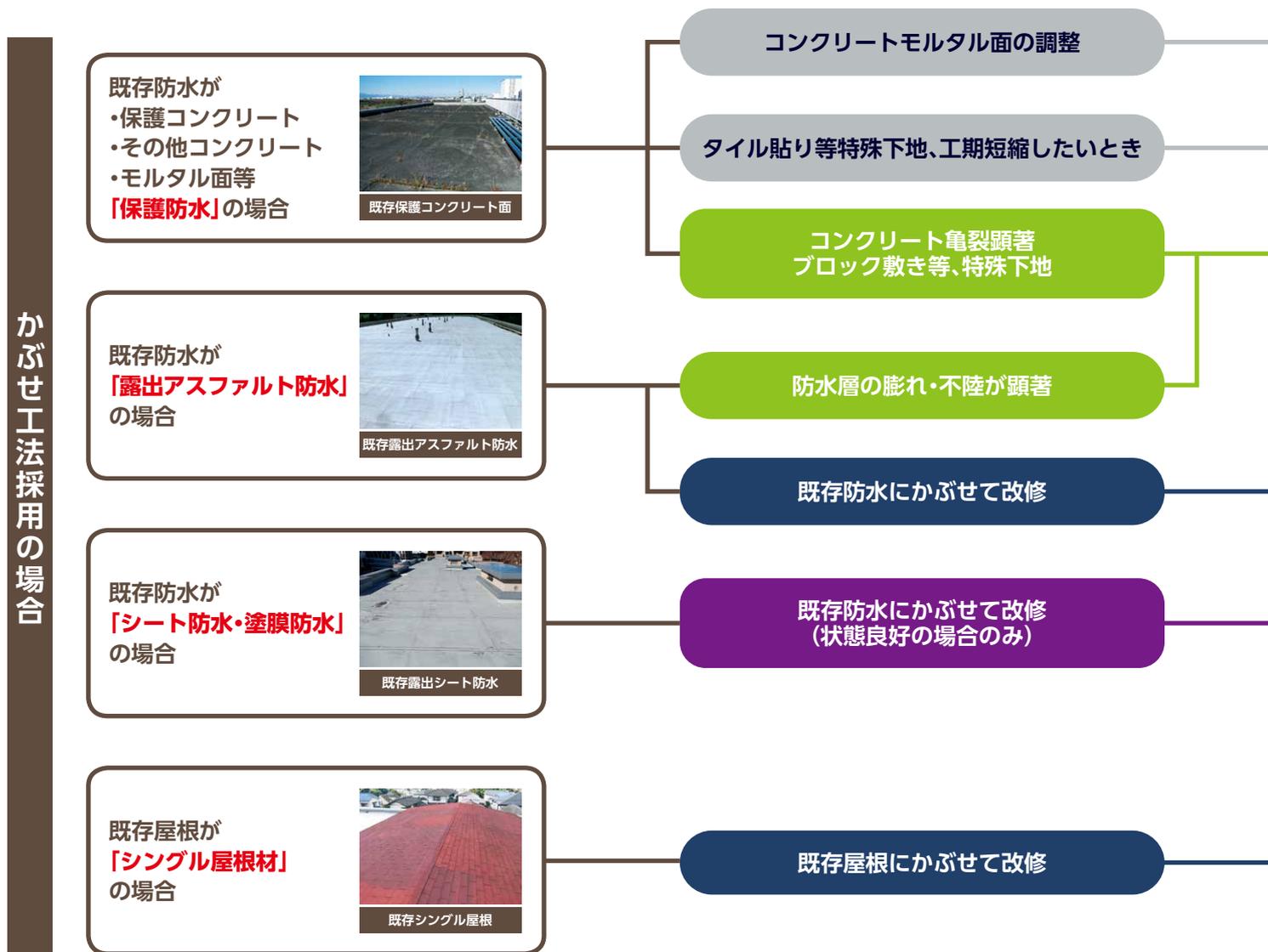
防水撤去後仮防水

既存露出アスファルト防水

既存露出シート防水

# 下地処理選定チャート

下地処理材の選定と防水工法の検討にあたり、既存防水の劣化状況から新規防水までの流れをフローチャートでご用意しました。

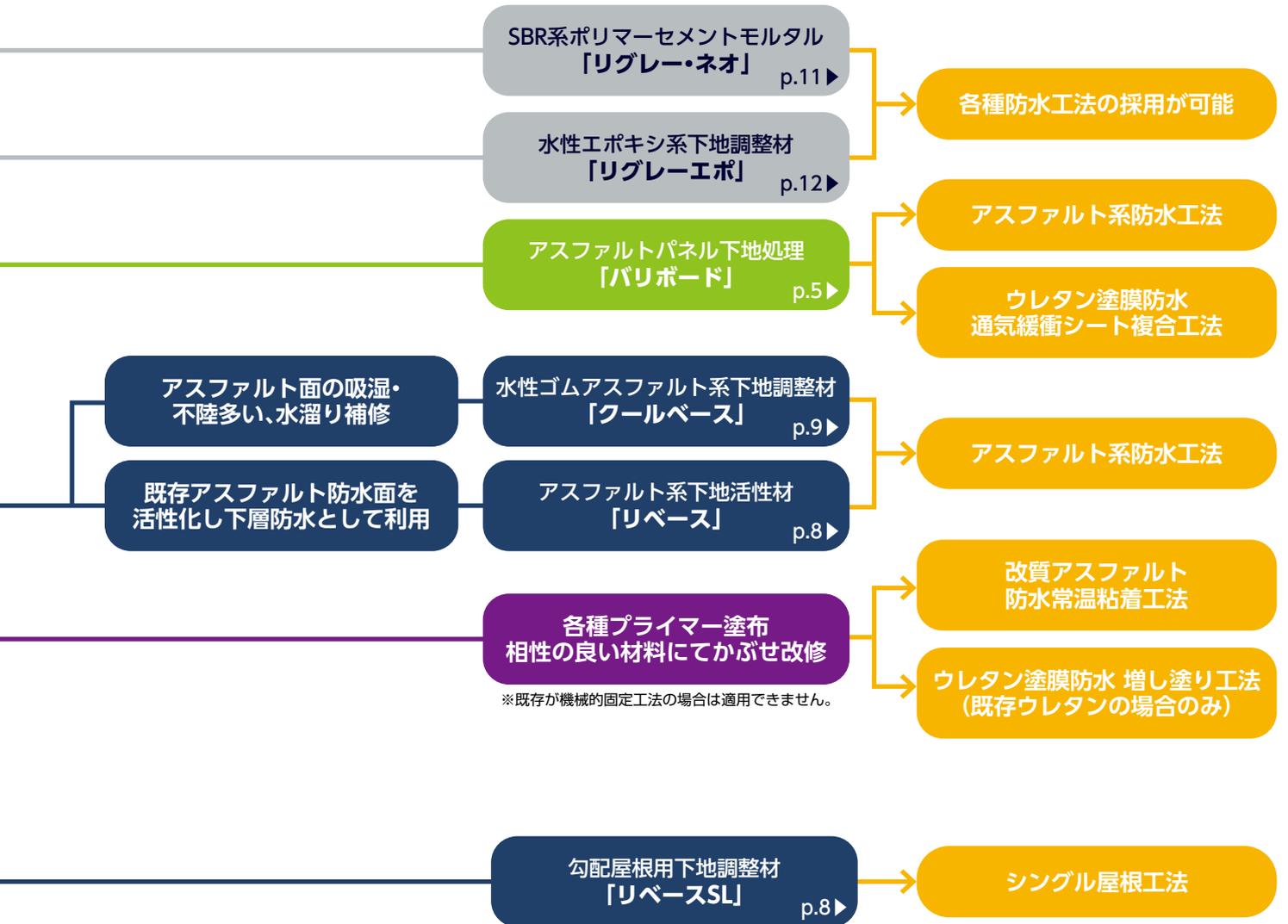


●かぶせ(再生)工法とは…

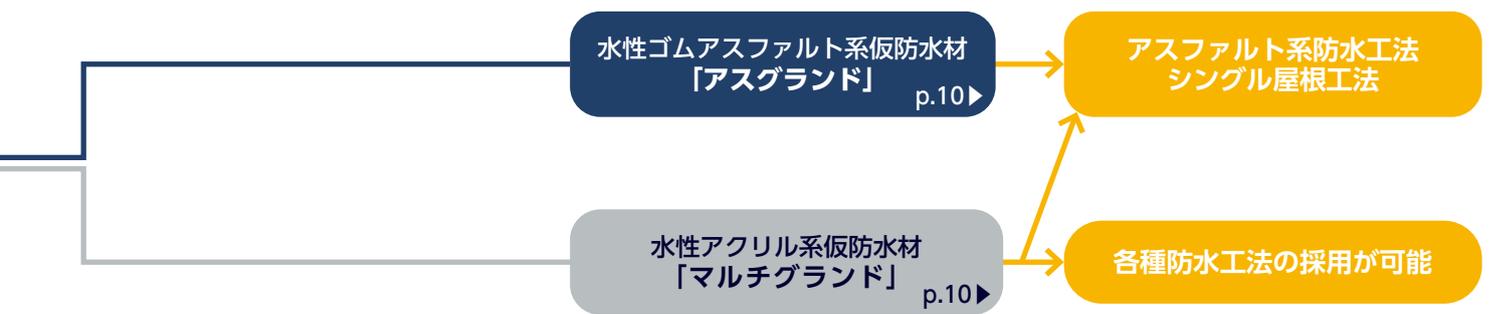
既存防水層の不良部分のみを撤去し、適切な下地処理を施した上で、新規の防水層をかぶせて施工する工法です。そのため、既存と新規の防水材料の相性の考慮が必要です。撤去工法に比べ、騒音と廃棄物が少なく、工期短縮、コスト削減が可能になります。現在防水改修の主流です。

●撤去工法とは…

既存防水層の劣化が激しい場合など、全面撤去して新築同様の下地にもどして新規防水層を施工する工法です。様々な防水層の選択が可能になりますが、撤去時に騒音が発生する上、工期やコストがかかる傾向にあります。また、新規防水施工まで仮防水等による雨養生が必要です。



※チャートには含まれていませんが、防水工法はこの他に各種機械的固定工法(クールスポット・ビュートップ)の採用も可能です。



仮防水材とは

既存防水層を撤去後、新たに防水層を施工するまでの一時的な防水材のこと。施工後約3時間で耐降雨性能を発揮し、0.3mm程度までのクラックに追従、施工後約7日間一時的な仮防水性能を発揮します。

## アスファルトパネル貼り「乾式」下地処理工法 「アスファルトパネル(バリボード)」

「アスファルトパネル(バリボード)」は、アスファルト無機質材を配合した4mmの成形板です。

下地へ専用接着剤で貼り付けた後、アスファルト系テープで目地貼ります。湿式が主体の従来の下地処理では、条件によっては大掛かりになり、また、乾燥養生に時間がかかりました。アスファルトパネルは養生不要の乾式接着工法ですので、防水に適した平滑な下地をより短い工期で作ることができます。



### ■高精度・簡単・フクレ防止効果

工場成型のパネルを点付けで接着する簡単施工で精度の高い下地ができます。点付け接着であるため下地水分の拡散性が高く、パネルが高強度であるため、通気・脱気性能が高く、フクレ防止効果が期待できます。

### ■工期短縮・費用軽減

目地処理・亀裂補修、モルタルの乾燥養生等従来の工程に比較すると、工期短縮・費用軽減になります。かぶせ改修が採用できれば、撤去工事の騒音も少なくできます。

#### 今までの下地処理では…

- 高圧水洗浄及びケレン清掃
- 段差修正
- 伸縮目地撤去(アスファルトピッチや塩ビキャップ)
- 各種目地処理(バックer詰めシール材充填・貧調合モルタル充填・ウレタンモルタル充填)
- 欠損部撤去、修正
- 亀裂Uカットウレタンシール充填
- 浮き部撤去、修正
- 下地全面樹脂モルタル塗布(厚みは劣化状況による)

#### アスファルトパネルを使用すると…

- 高圧水洗浄及びケレン清掃
- 段差修正
- 乾式下地処理材アスファルトパネル  
\* 伸縮目地は突出部のみ撤去

面倒な作業はカット!  
たったコレだけ!



### ■多くの既存防水層で採用でき、各種防水が施工可能

各種の下地に施工可、新規防水層の選択肢も幅広い。(次回もかぶせ改修可能)

既存防水層	下地処理	新規防水工法
<ul style="list-style-type: none"> <li>・アスファルト露出防水</li> <li>・アスファルト保護防水</li> <li>・ウレタン塗膜防水</li> <li>・加硫ゴムシート防水接着工法</li> <li>・塩ビシート防水接着工法</li> </ul>	アスファルトパネル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アスファルト防水工法</li> <li>・改質アスファルトシート防水常温粘着工法「ガムクール防水」</li> <li>・改質アスファルトシート防水トーチ工法「ポリマリット防水」</li> <li>・ウレタン塗膜防水絶縁脱気複合工法「オルタック防水」複合工法</li> </ul>

### ■特殊下地やアスファルト防水でフクレが多くても採用可能

クリンカータイルや平板ブロック、露出防水のフクレやしわの上でもかぶせ工法ができます。

#### 今までの下地処理では… (クリンカータイルなどの下地)

- 【撤去した場合の下地処理項目】
- 高圧水洗浄及びケレン清掃
  - 亀裂Uカットウレタンシール充填
  - 既存クリンカータイル全面撤去
  - 浮き部撤去、修正(またはエポキシ樹脂注入)
  - 欠損部撤去、修正
  - 下地全面樹脂モルタル塗布(厚みは劣化状況による)

#### アスファルトパネルを使用すると…

- 高圧水洗浄及び掃き清掃
- 乾式下地処理材アスファルトパネル  
\* 大きなフクレのみ十字切開貼り戻し

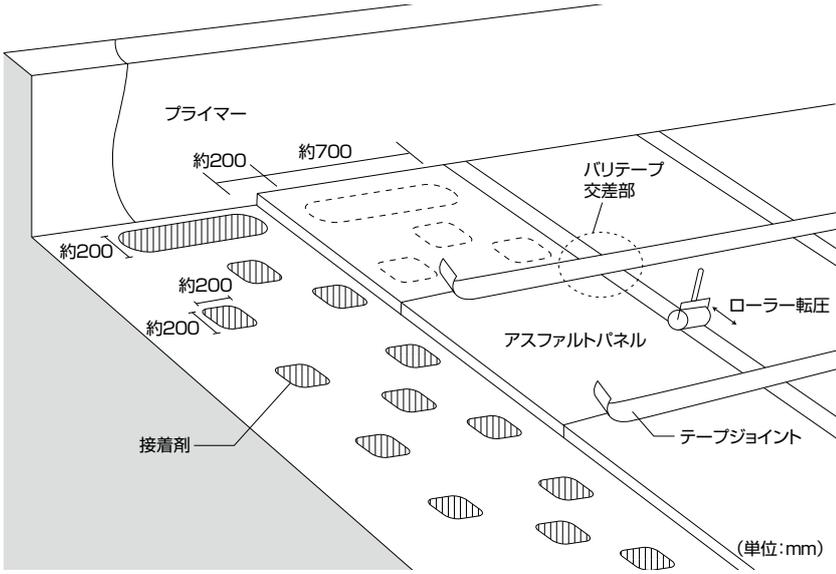
#### 今までの下地処理では… (アスファルト防水の多数のフクレとしわの下地)

- 【撤去した場合の下地処理項目】
- 高圧水洗浄及び掃き清掃
  - フクレ箇所十字切開
  - 切開箇所バーナー等による焙り戻し
  - 下地活性化材の塗布

#### アスファルトパネルを使用すると…

- 高圧水洗浄及び掃き清掃
- 乾式下地処理材アスファルトパネル  
\* 大きなフクレのみ十字切開貼り戻し

## 施工手順



1. バリボード施工に先立ち、立上り部分に所定のプライマーを塗布しておきます。
2. バリボードは砂面を下側にし、縦横のラインを揃えるように突き付け施工とします。
3. ドレン周辺部は、ドレンつばからバリボード200mm以上控えます。
4. 下地へは、レイコーセメントの場合、レイコーディッシャーを使用し、接着剤1枚あたり5ヶ所の点貼り(0.5kg/m<sup>2</sup>)とします。ただし、立上り際、出入隅、ドレン周辺にあたる端部は接着剤をボーダー状に塗布します。
5. バリボードのジョイント部にボードのジョイントがテープの中心となるよう貼り付けた後、ローラーで転圧します。
6. バリテープが交差する部分は水路をふさぎます。



## 組合せ仕様・使用材料

既存防水種別	接着剤・プライマー
アスファルト露出防水	レイコーセメント(0.5kg/m <sup>2</sup> )※3
アスファルト保護防水※1	レイコーセメント(0.5kg/m <sup>2</sup> )※4
ウレタン塗膜防水※2	プライマー※5 + VTエース(0.3kg/m <sup>2</sup> )
加硫ゴムシート防水※2	VTエース(0.3kg/m <sup>2</sup> )
塩ビシート防水接着工法※2	プライマー※6 + VTエース(0.3kg/m <sup>2</sup> )



アスファルトパネル	ジョイントテープ	新規防水仕様
バリボードPS	バリテープC	ガムクール防水
バリボードPS	バリテープC	オルタック防水複合法※7
バリボードPS	バリテープPM	ポリマリット防水 (一層目粘着)
バリボードS	バリテープPM	ポリマリット防水 (一層目トーチ)

既存防水に適した接着剤等を使用します。新規防水仕様に応じてバリボードとバリテープを使い分けます。

※1 保護材は保護コンクリート、モルタル、高圧ブロック、タイル等とします。

※2 下地シートの種類や劣化の状態により適応できない場合があります。

※3 既存アスファルト防水の状況によっては、レイコーセメントに代えてセメントMS(0.5kg/m<sup>2</sup>)を使用することができます。

※4 下地の状況によっては、レイコーセメントに代えて水性プライマーMS(0.2kg/m<sup>2</sup>)または速硬化OTプライマーMブルー(0.1kg/m<sup>2</sup>)+セメントMS(0.5kg/m<sup>2</sup>)を使用することができます。

※5 OTプライマーA(または速硬化OTプライマーMブルー)を塗布します。(0.1kg/m<sup>2</sup>)

※6 VTプライマーG(0.1kg/m<sup>2</sup>)を塗った後、速硬化OTプライマーMブルー(0.1kg/m<sup>2</sup>)を塗ります。

※7 改修防水層にオルタック防水複合法を採用する場合は立上り入隅部にOTシールおよびメッシュUBを用いた補強塗りを行います。

下地が著しく劣化している場合は「アスファルトパネル」工法の適用が困難な場合があります。

防水工事業者等による事前確認を推奨します。

※施工についての詳細は施工マニュアルをご参照ください。

## こんな使い方もあります

一部アスファルト露出防水のあるルーフバルコニー等でも、アスファルト防水露出部にアスファルトパネルを使用することで、異種材料の組合せではなく、全面ウレタン防水複合法が採用可能になります。



## 露出防水と保護コンクリートの取り合い



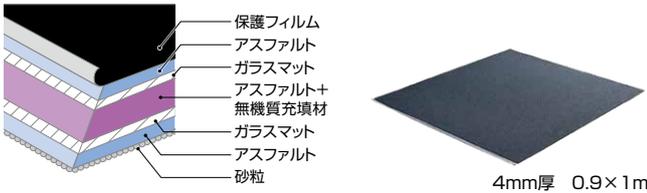
## 材料

※各材料の寸法と重量は、実際の製品と若干異なる場合があります。

### アスファルトパネル

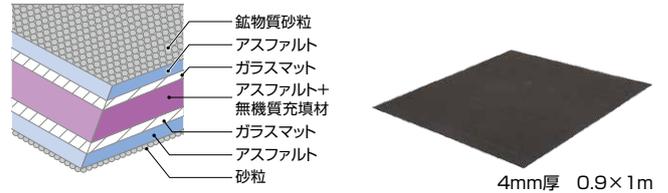
#### バリボードPS

良質のアスファルトに無機質充填材を配合し板状に成形したものです。表面には保護フィルム、裏面には砂粒を圧着してあり砂粒面を下側にして施工します。表面のフィルムをはがしてオルタックシートやゴムクール等と接着させます。施工が容易で下地によくなり、裏面の砂粒層が下地から発生する湿気の拡散効果を発揮します。耐候性・防水性・寸法安定性に優れ、また耐衝撃性・耐圧縮性などの特性も優れています。



#### バリボードS

アスファルト熱工法やポリマリット工法用に表面を鉱物質粉粒で仕上げたアスファルトパネルです。表面以外はバリボードPSと同じ構成です。



### ジョイントテープ

#### バリテープC

バリボードPSの目地部増し貼り用。剛性が高く強靱な片面粘着層付きのテープです。



0.7mm厚 100mm×20m巻

#### バリテープPM

ポリマリット工法でのバリボードS目地部増し貼り用。改質アスファルトルーフィングをテープ状にカットしたものです。



2mm厚 100mm×8m巻

#### バリテープH

アスファルト熱工法でのバリボードS目地部増し貼り用。表面鉱物質粉粒で耐熱性と寸法安定性に優れた片面粘着層付テープです。



1.4mm厚 100mm×10m巻

### 接着剤

#### レイコーセメント

バリボード・断熱材ギルフォーム用接着剤。特殊合成ゴムと高級アスファルトからなるゴムアスと石油系溶剤から構成されたペーストタイプの接着剤です。



18kg/缶

#### セメントMS

バリボードPS、バリボードS貼付に用いる接着剤です。



1.3kgカートリッジ 12本/箱

#### VTエース

既存下地がウレタン塗膜防水、合成高分子系シート防水の場合に、バリボードの接着に使用する変成シリコーンエポキシ樹脂系接着剤です。F☆☆☆☆・4VOC品



2kg/チューブ 9本/箱

### プライマー

#### VTプライマーG

アクリルウレタン系2液硬化型プライマー。



6kgセット(主剤:2kg/硬化剤:4kg)  
※2023年10月21日発売予定

#### 速硬化OTプライマーMブルー

塗布した部分が識別しやすいよう青色に着色した速乾性の既存ウレタン防水用仲介プライマーです。



8kg/缶

#### 水性プライマーMS

セメントMS施工時に使用する水性アクリル系プライマーです。



18kg/缶

### 脱気材

#### ステンレスペーパス・立上り用ステンレスペーパス・ペーパス

既存下地水分を抽出し、防水層のフクレを抑制する脱気筒。バリボードとの組合せで大きな効果を発揮します。ペーパスはアスファルト系防水の立上りに、立上り用ステンレスペーパスはオルタック防水の立上りに使用します。ステンレスペーパスNⅡ/NⅠは平面部(全工法共通、70~80㎡程度に1カ所)に使用。断熱工法用に二重タイプのステンレスペーパスWⅡ/WⅠもあります。

ステンレスペーパスNⅡ



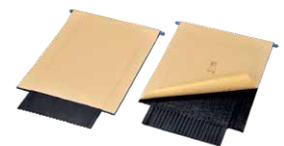
1個/箱  
※2023年8月21日発売

立上り用ステンレスペーパス(オルタック防水用)



脱気板4個・アンカー16本・プレート4枚

ペーパス(立上り用)



幅:240mm  
高さ:350/500/700/1000mm  
各サイズ 5枚/箱

## アスファルト系下地活性化材「リベース」

既存アスファルト防水面を活性化する下地処理材です。既存アスファルト防水に相性よくなじみ下地の挙動に追従し、新設のアスファルト系防水との接着性が優れています。アスファルト防水によるかぶせ工法を可能にする必需品です。



**適用下地** 既存露出アスファルト防水面下地

### 規格

20kg/缶

### 標準使用量

ルーフィング下地:砂付 1.2kg/m<sup>2</sup>(砂落ちした場合1.0kg/m<sup>2</sup>)  
粉付(細砂) 0.8kg/m<sup>2</sup>

### 施工手順

1. 既存露出アスファルト防水面を良く清掃し、汚れや土砂などを除去します。その後十分に乾燥させます。
2. 既存露出アスファルト防水のフクレは十文字に切開し、バーナーで溶融し、再接着します。 3. リベースをゴム刷毛・ポリベラなどを用いて均一に塗布します。



清掃



十文字切開



溶融・再接着



均一に塗布

## 勾配屋根用下地調整材「リベースSL」

リベースSLは既存シングル葺き等に使用する、勾配屋根に適した粘度に配合された下地調整材です。新設のシングル屋根用下葦材ガムクールMⅡ等との接着性に優れています。



**適用下地** ●既存シングル屋根下地

**規格** 20kg/缶

**標準使用量** アスファルトシングル葺き 0.8~1.5kg/m<sup>2</sup>



施工前



施工後

### 新規防水との取合い

○:プライマー不要 ×:該当工法の施工はできません。

下地処理	アスファルト防水			ウレタン塗膜防水		塩ビシート防水
	熱アス	トーチ	粘着シート	複合(粘着シート)	密着	接着
リベース/リベースSL	○	○	○	○	×	×

### 材料積算

	面積	×	塗布量	÷	荷姿	=	数量
リベース/リベースSL	( )m <sup>2</sup>	×	( )kg/m <sup>2</sup>	÷	20kg	=	( )缶
使用量の目安	1.2kg/m <sup>2</sup> 塗布の場合、1缶で約16.5m <sup>2</sup> 施工できます。						

### 【施工の注意点】

- 勾配屋根で使用するには、軒下壁面などを汚さないように養生を行ってください。
  - 季節がありますので使用前に確認してください。
  - 使用前には必ず攪拌してください。(攪拌すると見かけの粘度が下がりますので作業性も向上します。)
  - 冬期など冷えて硬くなる場合があります。使用前まで暖かい室内での保管などの対応をお願いします。
  - 不陸調整のための厚塗りは行わないでください。
- 厚塗りの場合、乾燥時に肉やせ・ひび割れが発生し、乾燥時間が著しく長くなります。厚塗りの場合には、クールベースを推奨します。



リベース 20kg リベースSL 20kg

## 水性ゴムアスファルト系下地調整材「クールベース」

荒れた既存アスファルト防水層の不陸調整、砂付面下地処理、水溜りの不陸調整などに適した厚付け可能なゴムアスファルト系処理材です。

アスファルト防水撤去後の穴うめや不陸調整など任意の塗膜厚で利用できます。

作業性に優れ、金ゴテやゴム刷毛などで平滑な塗布面に仕上がります。

反応硬化タイプのため、反応速度が速く、通常は翌日には次工程が施工できます。



### 適用下地

● 既存露出アスファルト防水面・既存アスファルトシングル面・水溜り部の補修や防水撤去後段差の修正部分

### 規格

○クールベース(混和液)[ゴムアスファルト系エマルジョン]…………… 8kg/缶      ○硬化物比重…………… 1.5  
○クールベースパウダー[速硬化型特殊セメント+骨材]…………… 16kg/袋      ○最大塗布量…………… 30mm(水溜り補修想定)  
○可使時間/硬化時間(20℃) …………… 約1時間※1/約16時間※2

※1 気温、その他の状況によっては可使時間が短くなる場合があります。  
※2 気温、塗布厚、下地状況によっては硬化時間が長くなる場合があります。

### 配合比

クールベース	クールベースパウダー	+	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">                 勾配調整時※ 5号珪砂 2.4~3.0             </div>
1	2		

クールベース(混和液)1缶に対し、クールベースパウダー1袋で1セットとなります。小分けする場合は上記の通りの配合(重量比)となります。

※勾配調整には、5号珪砂を加えた配合(重量比 2.4~3.0)が適しています。

### 標準使用量

下地	塗布量目安
砂付面の下地処理	1.4~2.0kg/m <sup>2</sup>
水溜り部の補修や防水撤去後の修正や水勾配修正	必要塗膜厚(mm)×比重(1.5)
5号珪砂を加えた勾配調整	必要塗膜厚(mm)×比重(1.8)

### 材料積算

	面積	×	厚み	×	比重	÷	荷姿	=	数量
クールベース(混和液) 8kg	( ) m <sup>2</sup>	×	( ) mm	×	1.5	÷	24kg/セット	=	( ) 缶
クールベースパウダー 16kg	-	×	-	×	-	÷	-	=	( ) 袋(缶と同じ数)
使用量の目安	2mm厚の場合、1セット(1缶+1袋=24kg)で、約8m <sup>2</sup> 施工できます								

### 施工手順

1. 既存露出アスファルト防水層表面を良く清掃し、汚れや土砂などを除去します。その後充分に乾燥させます。
2. パウダーと混練する前にクールベース(缶)を上下に充分ふり混ぜた後、バケツ等にあげ、攪拌機で攪拌しながらクールベースパウダーを徐々に加えていきます。全量投入後、さらに3分程度攪拌します。その際、固まりがなく均一に混合したかを確認します。
3. 金ゴテやゴム刷毛を用いて平滑に塗布します。クールベースの完全硬化を確認した後に次工程に移ります。



清掃



攪拌



穴うめ



均一に塗布

### 新規防水との取合い

○: プライマー不要    ×: 該当工法の施工はできません

新規防水工法	アスファルト防水			ウレタン塗膜防水		塩ビシート防水
	熱アス	トーチ	粘着シート	複合(粘着シート)	密着	接着
クールベース	○	○	○	○	×	×

### 【施工の注意点】

- 5~40℃の屋内に保管してください。クールベースパウダーは水濡れ厳禁です。降雨・結露等で濡れないように保管してください。クールベースの水希釈は厳禁です。
- 気温が5℃未満の場合や、降雨・降雪・強風などが予想される場合は施工を避けてください。
- 水溜りは水分を除去し、乾燥させてから施工してください。下地が濡れた状態だと接着が悪くなる場合があります。
- 劣化したコンクリート等、吸水の激しい下地(夏季に多く見られます)には、ドライアウト防止のため、クールベース(混和液)を水で2倍に希釈したもの、または水性プライマーASを塗布してプライマー処理を施した後、クールベースを施工してください。
- 厚さ2mm以上塗布する場合、下塗りを行い、硬化後塗り重ねてください。下塗りをしない場合、がみ肌状のフクレを生じる場合があります。(特に夏季)



クールベース 8kg      クールベースパウダー 16kg

## 水性ゴムアスファルト系仮防水材「アスグランド」

「アスグランド」は、既存防水層撤去後の雨養生となる仮防水材です。混和液とパウダーを混練して塗布後、約3時間※で仮防水の機能を発揮。優れた下地亀裂追従性で、撤去時に処理を見逃しがちな微細なひびまでカバーします。※(20℃環境での硬化時間)。



**適用下地** 各種防水撤去後の下地 **新規防水** アスファルト系防水

### 規格

- アスグランド(混和液)【ゴムアスファルト系エマルジョン】…………… 9kg/缶
  - グランドパウダー【速硬化特殊セメント+骨材】…………… 12kg/袋
- 【配合比】  
アスグランド1缶に対し、グランドパウダー1袋で1セットです。(硬化物比重1.4)  
小分けする場合は、配合重量比3:4となります。

### 施工手順

混和液とグランドパウダーを混練して塗布し、しごき塗りと本塗りの2工程で施工します。



アスグランドしごき塗り 0.4kg/m<sup>2</sup>



アスグランド本塗り 1.0kg/m<sup>2</sup>  
(均一に塗布)

## 水性アクリル系仮防水材「マルチグランド」

新規防水が高分子系、アスファルト系を問わずに使用できる仮防水材です。樹脂モルタルの要領で攪拌しコテで塗るといった優れた作業性も特長です。既存防水層を撤去し「マルチグランド」を施工した後、各種防水の施工が可能です。特に高分子系新規防水に適しています。

**適用下地** 各種防水撤去後の下地 **新規防水** 高分子系防水、アスファルト系防水

### 規格

- マルチグランド(混和液)【特殊アクリルエマルジョン】…………… 10kg/包装
  - グランドパウダー【速硬化特殊セメント+骨材】…………… 12kg/袋
- 【配合比】  
マルチグランド1缶に対し、グランドパウダー1袋で1セットです。(硬化物比重1.4)  
小分けする場合は、配合重量比1:1.2となります。

### 施工手順

混和液とグランドパウダーを混練して塗布し、しごき塗りと本塗りの2工程で施工します。



マルチグランドしごき塗り 0.4kg/m<sup>2</sup>



マルチグランド本塗り 1.0kg/m<sup>2</sup>  
(均一に塗布)

### 新規防水との取合い

○:プライマー不要 ×:該当工法の施工はできません \*推奨プライマー

新規防水工法	アスファルト防水			ウレタン塗膜防水		塩ビシート防水
	熱アス	トーチ	粘着シート	複合(粘着シート)	密着	接着
アスグランド	○	○	○	○	×	×
マルチグランド	×	×	水性プライマー AS*	OT プライマー A*	OT プライマー A*	○

### 材料積算 ※アスグランド・マルチグランド共通

※グランドパウダーは、混和液と同じ数

	面積	×	塗布量	÷	荷姿	=	数量
アスグランド	( )m <sup>2</sup> 厚み:1mm	×	1.4kg/m <sup>2</sup> (しごき塗り+本塗り)	÷	21kg/セット	=	( )缶
					22kg/セット	=	( )袋
マルチグランド							( )缶
使用量の目安	・アスグランド 1セット(1缶+1袋=21kg)で、約15m <sup>2</sup> 施工できます。 ・マルチグランド 1セット(1缶+1袋=22kg)で、約15m <sup>2</sup> 施工できます。						

### 【施工の注意点】 ※施工の際は必ず別紙「施工マニュアル」をご参照ください。

- 5~40℃の室内に保管してください。グランドパウダーは水濡れ厳禁です。  
降雨・結露等で濡れないように保管してください。
- 気温が5℃未満の場合、降雨・降雪・強風が予想される場合は施工を避けてください。
- 混和液の水希釈は厳禁です。仮防水機能を損なう恐れがあります。
- 下地の水溜りは水分を除去し、乾燥させてから施工してください。  
下地が濡れた状態だと、接着不良、硬化不良を起こす場合があります。0.3mm以上の下地亀裂は、必ずUカット+シール処理を行ってください。



## SBR系ポリマーセメントモルタル「リグレー・ネオ」

コンクリート下地等によく接着し、広い範囲で使用されるポリマーセメントモルタルです。モルタル中に樹脂皮膜が形成されるため水分が早期蒸発せず、ドライアウトを起こしにくく施工後の亀裂の発生を抑えます。防湿、耐水性、耐衝撃性、耐薬品性に優れています。



**適用下地** コンクリート下地・モルタル下地

### 配合比

材料	配合比率(混和液:パウダー)			硬化物比重	用途
	リグレー・ネオ(混和液)	パウダー 薄塗り用	パウダー 厚塗り用		
リグレー・ネオ 薄塗り用	4kg	9kg	—	1.8	下地調整など
リグレー・ネオ 厚塗り用	4kg	—	20kg	2.0	不陸水たまり調整など

**【注意】**リグレー・ネオに水を添加しないでください。

**規格** ○リグレー・ネオ(混和液)……………18kg/缶      ○リグレー・ネオ パウダー(薄塗り用/厚塗り用)……………各20kg/袋

### 材料積算

材料積算		面積	×	厚み	×	比重	×	配合比	÷	全体量	÷	荷姿	=	数量
薄塗り用	リグレー・ネオ(混和液)	( )m <sup>2</sup>	×	( )mm	×	1.8	×	4	÷	13	÷	18kg/缶	=	( )缶
	リグレー・ネオ パウダー 薄塗り用	( )m <sup>2</sup>	×	( )mm	×	1.8	×	9	÷	13	÷	20kg/袋	=	( )袋
使用量の目安	2mm厚の場合、混和液8kg+パウダー薄塗り用18kgで約7.2㎡施工できます。													
厚塗り用	リグレー・ネオ(混和液)	( )m <sup>2</sup>	×	( )mm	×	2.0	×	4	÷	24	÷	18kg/缶	=	( )缶
	リグレー・ネオ パウダー 厚塗り用	( )m <sup>2</sup>	×	( )mm	×	2.0	×	20	÷	24	÷	20kg/袋	=	( )袋
使用量の目安	5mm厚の場合、混和液4kg+パウダー厚塗り用20kgで約2.4㎡施工できます。													

※1回の塗りつけ厚:薄塗り用2mmまで、厚塗り用5mmまで。

### 施工手順

1. 下地はよく点検し、ゴミ・土砂・サビ・油分等を除去してください。特に脆弱部分はブラシ掛け、ケレン掛けを行ってください。
2. モルタル・コンクリート下地が乾燥している場合はあらかじめ水を打ってください。
3. ALC板等の給水の激しい下地や、モルタル・コンクリート下地の脆弱部分には、あらかじめリグレー・ネオ(混和液)をプライマーとして塗布します。
4. リグレー・ネオ(混和液)にはリグレー・ネオ パウダーを徐々に加えながら充分に攪拌します。  
(混練にはハンドミキサー、モルタルミキサー等を使用してください。)
5. 塗布厚に応じて、刷毛や金ゴテを用いて塗布し、下地を調整します。



清掃



混和液を塗布



攪拌



均一に塗布

### 新規防水との取合い

○:プライマー不要 \*推奨プライマー

新規防水工法	アスファルト防水			ウレタン塗膜防水		塩ビシート防水
	熱アス	トーチ	粘着シート	複合(粘着シート)	密着	接着
リグレー・ネオ	水性プライマーAS*			OTプライマーA*		○

### 【施工の注意点】

- 気温5℃未満での施工は避けてください。
- 混練したリグレー・ネオは、1時間以内に使用してください。
- 1回の塗りつけ厚は、薄塗り用2mm、厚塗り用5mmまでにしてください。
- 他の材料との混用は避けてください。
- 混練器具・施工用具等は使用後、直ちに水洗いしてください。



パウダー 薄塗り用 20kg      パウダー 厚塗り用 20kg      混和液 18kg

## 水性エポキシ系下地調整材「リグレーエポ」

コンクリート等の下地はもちろん、タイル、金属材など特殊な各種下地材への接着性に優れた水性エポキシ系の下地調整材です。硬化が早く低温時においても翌日に溶剤系材料の施工が可能です。しごき塗りにより、荒れたコンクリート面の上に皮膜を形成し、ウレタン防水でのピンホールの発生を防止する効果があります。さらに、耐溶剤性に優れており様々な防水工法の下地処理材として利用できます。



### 適用下地

●コンクリート・モルタル・エポキシ床材・磁器質タイル・鉄板・ステンレス板・ガラス板・アルミ板等の下地

※酸化被膜のないアルミ素材はセメント成分と反応して発泡する場合があります。事前に確認試験を行ってください。シルバー塗料の上には使用できません。

### 配合比

材料	配合比率(主剤:硬化剤:パウダー:珪砂)				硬化物比重	用途
	主剤	硬化剤	パウダー	珪砂(6~7号)		
標準塗布(1~2mm)	1kg	1kg	5kg	—	1.8	下地修正など
厚塗り用(2~5mm)	1kg	1kg	5kg	1kg	2.0	不陸水たまり調整など

### 規格

○リグレーエポ(主剤/硬化剤)……………各4kg      ○リグレーエポパウダー……………20kg/袋

### 材料積算

#### ●標準塗布用(1~2mm)

	面積	×	厚み	×	比重	÷	荷姿	=	数量
リグレーエポ	( )㎡	×	( )mm	×	1.8	÷	28kg/セット	=	( )セット
使用量の目安	1mm厚の場合、28kgセットで、約16㎡ 施工できます								

#### ●厚塗り用(2~5mm)

	面積	×	厚み	×	比重	×	配合比	÷	全体量	÷	荷姿	=	数量
リグレーエポ	( )㎡	×	( )mm	×	2.0	×	28	÷	32	÷	28kg/セット	=	( )セット
珪砂(6~7号)	( )㎡	×	( )mm	×	2.0	×	4	÷	32			=	( )kg
使用量の目安	5mm厚の場合、28kgセット+珪砂4kg(合計32kg)で、約3.2㎡ 施工できます ※珪砂は別途ご用意ください												

### 施工手順

1. 下地の汚れ、油分、脆弱部などをブラシ掛け、ケレン掛けを行ってください。
2. 吸い込みが激しい下地や、下地が高温になっている場合は、主剤+硬化剤の混和液を水で希釈(1:1)したものを塗布すると接着がよくなります。
3. 主剤・硬化剤を容器に入れ混合し、ミキサー等で攪拌しながらパウダー・珪砂を徐々に添加してください。
4. 標準厚の施工の場合は、金ゴテ・ヘラなどでしごきながら施工します。レベリング性はないため、丁寧にコテ目・ヘラ目をならしめます。  
 硬化時間目安:標準塗布1~2mmの場合は20℃ 8時間/5℃ 15時間    可使時間目安:1時間  
 厚塗り施工の場合は、荒れた下地及び欠損部に金ゴテなどですり込みます。内部の空気などを押し出すためにたたきなどして振動を与えてください。  
 硬化時間目安:厚塗り3~4mmの場合は20℃ 18時間/5℃ 30時間    5mmの場合は20℃ 30時間/5℃ 48時間



清掃



攪拌



立上り施工



均一に塗布

### 新規防水との取合い

○:プライマー不要    \*推奨プライマー

新規防水工法	アスファルト防水			ウレタン塗膜防水		塩ビシート防水
	熱アス	トーチ	粘着シート	複合(粘着シート)	密着	接着
リグレーエポ	水性プライマーAS*			OTプライマーA*		○

### 【施工の注意点】

- 気温5℃未満の場合や、降雨・降雪が予想される場合は施工を見合わせてください。
- ピンホールが消えない場合は1回目の表面が乾燥して人が乗って作業できるようになってから再度材料を塗布してください。
- 金ゴテ等で突起ができた場合は皮すき等で取り除いてください。
- この製品は湿潤下地用の材料ではありません。



パウダー 20kg    硬化剤 4kg    主剤 4kg

## 改修工専用目地処理工法「メジパス シール工法」

既存保護コンクリート伸縮目地撤去後にアルミ製プレート「メジパス」をシール材で固定する乾式目地処理工法です。

目地部の挙動緩衝、新規防水層のフクレ防止に効果を発揮します。



### メジパス シール工法の特長

- 目地部の動きを緩衝し、通気路を確保することで湿気を排出。防水層の浮きやフクレを防ぎます。
- 乾式工法により目地処理当日の防水施工が可能のため、工期短縮に貢献します。
- 「メジパス」は軽量・極薄アルミ製のため施工性と納まりがよくオルタックシートやガムクール等、粘着層付きシート類との接着性に優れています。

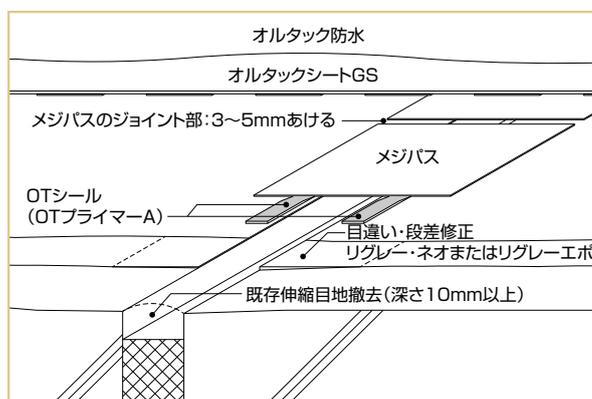
### 規格

- メジパス【伸縮目地カバー用アルミ製プレート】…………… 90mm×1m/本
- 厚さ……………0.3mm ○100枚/箱

### メジパス固定用材料組合せ例

新規防水工法	主なプライマー	シール材
ウレタン塗膜防水 (オルタック防水複合工法)	OTプライマー-A	OTシール
アスファルト系防水 (BANKS工法、ストライプ工法、プライムアス工法) ガムクール防水、ポリマリット防水	水性プライマー-AS	GCライン

### オルタック防水複合工法の場合の納まり図例



### 施工手順

1. 既存目地材を撤去します。(深さ10mm以上)
2. リグレー・ネオで下地処理を行います。(目地の段差はリグレー・ネオ厚塗り用等で修正)
3. 新規防水層に対応するプライマー※を塗布します。
4. シール材※を目地際に施工します。
5. 目地の上にメジパスを貼付け、ゴムローラーで転圧します。(メジパス同士のジョイントは3~5mm程度あける)

※プライマー、シール材は固定用材料組合せ例を参照



既存目地材の撤去  
リグレー・ネオで下地処理



メジパスをシール材で固定



転圧



新規防水層を施工

### 【施工の注意点】

- メジパスは黒いライン面を上にして使用してください。
- メジパスを施工した箇所は、当日中に新規防水層シート類(転圧必須)を施工してください。
- 下地の段差によっては、仕上がりに影響が生じることがあります。



メジパス

## 手摺支柱根元充填工法「ステムガード工法」

屋上にアルミフェンスが設置されている場合、フェンス上部の接合部などから、内部に雨水が浸入し、防水層の裏側に水が入り込む可能性があります。ステムガードはアルミ手摺支柱部からの雨水の浸入を防ぐ充填材です。



### ステムガード工法の特長

- 専用の充填材「ステムガード」が、高い流動性で、フェンス内部隅々までしっかり充填します。
- 比重が重く、フェンス内部にたまった水と入れ替わって充填され、雨水の浸入を防ぎます。
- 充填材にアルミと反応し腐食の原因になるセメントを使用しておらず、金属腐食の低減に効果があります。
- 専用のカバー材「ステムカバー」が、穴あけ部位からの雨水の浸入を防ぐとともに、新たにフェンス内部に入った雨水はカバーの下面より排水されます。

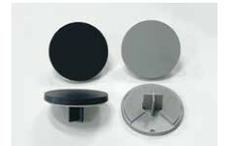


### 規格

ステムガードセット(黒・銀)標準的なアルミ手摺支柱60カ所分のセット。(支柱1本あたり100ccとして算出。状況により変わります)

【セット内容】(セットのほか、各箱ごとの追加注文が可能です。)

- ・ステムガード ポリマー 充填材/箱 …… 主剤2.1kg、硬化剤 0.9kg、パウダー: 8.4kg
- ・ステムガード ホルダーツール/箱 …… 充填用ポリカート330ml(ノズル、プランジャー付属) 20本
- ・ステムカバー(黒・銀)/箱 …………… 色:黒または銀 60個(寸法:Φ30×13mm 板厚4mm 差込部9mm幅 AES樹脂)



ステムカバー(黒または銀)

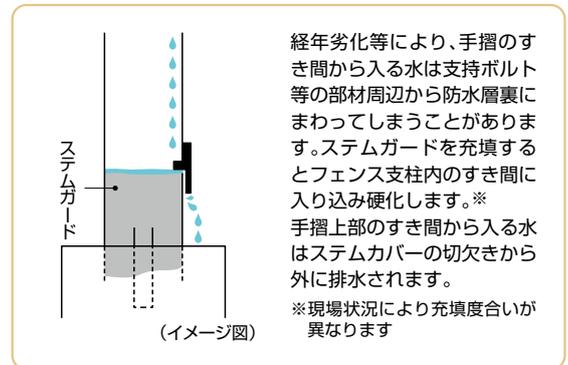
### 施工手順

#### ●ステムガード

1. ドリル等でフェンス支柱にΦ10mmの穴を開けてください(目安:床面から30mm位置)
2. 穿孔の際に出た切粉、ほこりなどをきれいに清掃してください。
3. ステムガードを所定の配合で混合してください。 可使時間:60分(23℃)  
(標準配合比(重量)※ 主剤:硬化剤:パウダー=0.7:0.3:2.8)
4. 混合したステムガードを、同梱しているポリカートに充填してください。  
(プランジャーを取り付ける際に、同梱のエア抜き用針金をご使用ください)
5. 市販のコーキングガンでフェンス支柱Φ10mmの穴の下の位置まで充填してください。
6. 施工部以外に充填材が付着した場合、充填材が硬化する前に必ず拭き取ってください。

#### ●ステムカバー

1. 被着体表面の凹凸・油分・水分・ゴミ・ほこりなどはきれいに除いてください。
2. 粘着テープの切り欠き部が下になるように位置合わせをしてください。
3. テープの剥離フィルムを剥がし、所定に位置に貼り付け、しっかりと圧着してください。



穴あけ



充填材装填



注入



カバー設置

### 【施工の注意点】

- 根元にシーリング材、塗料がある場合はそれを避け、かつ、ステムカバー施工をできる高さに穿孔します。
- 先に主剤、硬化剤を空気の巻き込みに注意し、充分混合します。後からパウダーを加え混合します。
- ステムカバーの貼り付けは10℃～30℃を目安としてください。



ステムガード  
ポリマー充填材



ステムガード  
ホルダーツール



ステムカバー  
(黒・銀)

※セットの場合は、ステムガードホルダーツールの箱内にステムカバーの箱を同梱して出荷となります。

北海道防水改修事業センター  
東北防水改修工事協同組合  
関東防水管理事業協同組合  
東海防水改修工事協同組合  
北陸防水改修事業センター  
関西防水管理事業協同組合  
中国防水改修事業センター  
九州防水改修工事協同組合

田島ルーフィング株式会社  
https://tajima.jp

東京支店

〒101-8579 千代田区外神田4-14-1  
TEL 03-6837-8888

大阪支店

〒550-0003 大阪市西区京町堀1-10-5  
TEL 06-6443-0431

札幌営業所

〒060-0042 札幌市中央区大通西6-2-6  
TEL 011-221-4014

仙台営業所

〒980-0021 仙台市青葉区中央1-6-35  
TEL 022-261-3628

北関東営業所

〒330-0801 さいたま市大宮区土手町1-49-8  
TEL 048-641-5590

千葉営業所

〒260-0032 千葉市中央区登戸1-26-1  
TEL 043-244-3711

横浜営業所

〒231-0012 横浜市中区相生町6-113  
TEL 045-651-5245

多摩営業所

〒190-0022 立川市錦町1-12-20  
TEL 042-503-9111

金沢営業所

〒920-0025 金沢市駅西本町1-14-29  
TEL 076-233-1030

名古屋営業所

〒460-0008 名古屋市中区栄1-9-16  
TEL 052-220-0933

神戸営業所

〒650-0023 神戸市中央区栄町通6-1-17  
TEL 078-330-6866

広島営業所

〒730-0029 広島市中区三川町2-10  
TEL 082-545-7866

福岡営業所

〒810-0041 福岡市中央区大名2-4-35  
TEL 092-724-8111

カタログ掲載上のおことわり

- ・印刷の色味は現物と異なる場合があります。
- ・各材料の寸法と重量は実際の製品と若干異なる場合があります。
- ・各仕様ページの工程図は、工程を分かりやすく示すことを目的としたイメージ図です。下地や材料の形状・寸法・色は実際と異なります。